

支部研究会報告

——九州支部——

5月号で1月分までの研究会報告を行なっておりますので、その後の活動内容について、順序を追って説明し、あわせて1979年の春季研究発表会（九州支部担当）の準備状況等を記することとします。

信頼性について（5.10）

（九州大学工学部 二宮 保）

信頼性の評価尺度、BATHTUB CURVE、系全体としての総合的な信頼性、等々の一般的な解説の後、

1. Multilayer Debugging Process
2. 従属故障を有する冗長系の信頼性
3. Rapid Testing for Noise Immunity of Electron Devices
4. 限界故障、

に関する専門的な解説があった。

玄海原子力発電所見学会（6.20）

佐賀県東松浦半島の先端、値賀崎にある、九州電力（株）の玄海原子力発電所を見学した。

1号機は、九州最初の原子力発電所として、昭和50年10月に運転を開始し、2号機は、昭和56年3月運転開始を目標に、現在建設を進めている。

その主な特徴点は右表の通りである。

一貫製鉄所におけるエネルギー、要員問題について、

（7.27）（八幡製鉄所 池上勝英）

最近の日本経済の動向を反映して、鉄鋼界でも、コスト低減の必要性がさげばれば、省エネルギー、省力化は、その目玉とされている。

エネルギー問題については一貫製鉄所のエネルギー供給構造についての説明と、転炉ガス有効回収のための、ホルダー容量決定シミュレーションモデルの構成と、回収原単位におよぼす諸要因の影響度についての報告が行なわれた。

つぎに要員問題については、製鋼工場、造塊作業を事例とした鉄鋼における、最近の要員設定の考え方についての説明があり、その要旨としては、多能工を前提とし

	1号機	2号機
用地面積	77万m ²	
電気出力	55万9千kW	55万9千kW
原子炉型式	軽水減速、軽水冷却、加圧水型（PWR）	
熱出力	165万kW	165万kW
燃料種別	低濃縮（約3%）二酸化ウラン	
装荷量	約48トン	約48トン

た弾力的要員運用をベースに、設備投資を伴わない省力化が推進されているとの報告であった。

昭和54年春季研究発表会について

7月27日に実行委員会を発足させ、主要事項についての審議を行なって大綱の決定をみて、着々と準備を進めておりますので、学会員多数の参加を期待しております。なお詳細は「OR学会だより」を参照してください。（文責・池上勝英）

事例報告の原稿募集！

ORの特徴は実践にあると言われております。実際的な応用をぬきにした理論ということはORでは考えられません。ところがわが国のOR界の現状では理論的な研究発表に比べて実践的な事例の報告がやや少ない感があります。

本誌でも以前から会員の皆さんからの事例報告をお願いしていましたが、まだ十分な成果をあげているとは言えません。その理由のひとつとしては企業の秘密ということもあると思いますが、ORの実践例というものが理論的な目新しさがなければ価値が少ないと誤解されていることも一因となっている気がします。

もっと気軽に、「こうやったらこれだけ利益があった」とか、「この問題はこう処理したが、もっとよい方法はないか」というような事例や問題提起をどしどししていただきたいと思っております。会員同士の知恵の交換というつもりでこの欄の活用をお願いいたします。（編集委員会）